

議事 3 号 令和 7 年度の協議会の取組方針（案）について

「神戸電鉄栗生線地域公共交通計画」の目標・理念及び基本方針に基づき、行政、交通事業者及び地域住民等の各関係者が主体となり、公共交通の維持・活性化に継続して取り組む。

1 計画に基づく主な取組

(1) **基本方針 1** 鉄道を軸とした地域公共交通サービスの安定的な維持・確保

ア 鉄道安全輸送設備等整備事業費補助による支援 **継続**

鉄道の安全性の確保や利便性の向上のため神戸電鉄が実施する鉄道施設及び車両等の更新や改良について、引き続き、国庫補助金を活用しつつ、県及び沿線市が協調して支援するとともに、協議会としても国への要望活動の実施により支援する。

イ 駅的美装化の実施 **継続**

駅利用者の快適性の向上のため、駅的美装化を引き続き実施する。昨年同様、単に修繕のみを行うのではなく、デザイン面でも趣向を凝らし、特徴のある駅づくりを志向するとともに、子どもや学生と連携した取り組みとなるよう検討し、栗生線への愛着心や「マイレール意識」の醸成が図られるよう取り組む。

ウ パーク＆ライド駐車場のキャッシュレス化 **継続**

パーク＆ライド駐車場の利便性を高め利用を促進するため、パーク＆ライド駐車場の精算機のキャッシュレス化に取り組むとともに、キャッシュレス化の周知 P R やキャッシュレス決済を活用したパーク＆ライド駐車場の利用促進策に取り組む。

(2) **基本方針 2** まちづくりと連携した地域公共交通サービスの構築

ア 鈴蘭台のまちづくり（神戸市） **継続**

令和 2 年 1 0 月末に事業完了した鈴蘭台駅前における再開発事業に引き続き、土地区画整理事業により「鈴蘭台幹線北区間（鈴蘭台駅～小部小西交差点）」の整備を進める。

イ 新たな住宅地の整備や住宅地から駅へのアクセス交通の確保・充実（三木市） **継続**

郊外型戸建て住宅団地が抱える人口減少・少子高齢化、空き家などの課題を解決するため、三木市 S D G s 未来都市計画のモデル事業として位置付けた「青山 7 丁目団地再耕プロジェクト」

ト」について、公募による選定事業者と連携しながら、交流拠点施設整備等に取り組む。

また、利用実態に即した路線バスの見直し及び鉄道駅、バス停にアクセスが可能なデマンド型交通の導入により、地域住民の移動の利便性向上に資する公共交通ネットワークの構築に取り組む。

ウ 「ひょうご小野産業団地」企業利用促進（小野市） **継続**

産業団地の整備としては県内初となる、県と市の共同事業である「ひょうご小野産業団地」の完成、全８区画の進出企業の決定により、新たに６００人の雇用が見込まれており、同団地と粟生線駅を結ぶコミュニティバスの運行を検討する。

エ 鉄道及びバスの連携による「おもてなしきっぷ」の販売 **継続**

これまで鉄道及び地域の飲食店等の連携により取り組んできた企画乗車券「おもてなしきっぷ」は、近年着実に販売枚数を着実に伸ばしている。引き続き、バス事業者と連携した「おもてなしきっぷ」の販売を継続することにより、公共交通利用の更なる定着を図っていく。

(3) **基本方針３** 市民・行政・事業者等の連携による地域公共交通の活性化

ア モビリティ・マネジメントの推進 **継続**

粟生線の利用を喚起するため、引き続き、モビリティ・マネジメントに取り組む。園児・小中学生を対象とした取組のほか、高校生へのモビリティ・マネジメントについても継続し、公共交通に関する「学び」や、公共交通の利用促進に関する高校生の主体的な活動をサポートする。

イ 利用のきっかけとなる乗車イベントの実施 **継続**

地域イベント等と連携した取組や、地域住民が参加できる魅力的な協議会イベントを継続的に実施するとともに、イベント相互の連携も検討し、地域の活性化及び公共交通の利用促進を図る。

ウ 通常列車でのサイクルトレインに向けた実証実験 **新規**

さらなる活性化策（手段）として、通常列車でのサイクルトレインの実証実験に取り組み、その有効性や効果等を前向きに検証していく。列車の安全・安定運行に支障がなく、経済性等を含め、その効果がある場合には、本格実施へと展開する。